



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年7月31日

上場会社名 日本化薬株式会社
 コード番号 4272 URL <https://www.nipponkayaku.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) グループ経理本部 経理部長
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 涌元 厚宏
 (氏名) 川村 勉 (TEL) 03-6731-5842
 配当支払開始予定日 ー

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	42,893	0.9	4,744	△11.9	4,595	△27.1	3,122	△29.9
2019年3月期第1四半期	42,490	3.9	5,382	△13.7	6,304	△4.1	4,454	△1.6

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 120百万円(△97.5%) 2019年3月期第1四半期 4,798百万円(△38.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	18.03	18.03
2019年3月期第1四半期	25.73	25.72

2019年3月期第3四半期において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴う遡及適用影響額を、2019年3月期第1四半期の数値に反映して表示しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	287,848	226,453	74.2
2019年3月期	293,571	229,043	73.6

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 213,693百万円 2019年3月期 216,041百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	ー	15.00	ー	15.00	30.00
2020年3月期	ー				
2020年3月期(予想)		15.00	ー	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	89,000	4.9	8,700	△8.9	9,200	△16.6	6,000	△19.4	34.65
通期	186,000	7.7	18,000	△9.7	19,000	△12.1	12,800	△13.8	73.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期1Q	177,503,570株	2019年3月期	182,503,570株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	4,359,001株	2019年3月期	9,358,749株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期1Q	173,144,631株	2019年3月期1Q	173,145,728株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の実績に与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

前連結会計年度において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第1四半期連結累計期間の数値について、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）の世界経済は、米国では設備投資や個人消費が堅調に推移し、欧州では雇用・所得環境の改善を背景に個人消費が底堅く推移する等緩やかな回復が持続しました。中国では米国との貿易摩擦の影響等により、景気の持ち直しに足踏みがみられました。日本経済は、個人消費や設備投資等が堅調に推移しており、緩やかな回復基調にありました。

このような状況の中、当社グループは本年度よりスタートさせた新中期事業計画“**KAYAKU Next Stage**”の重点テーマと中長期重点課題に取り組み、研究開発の強化、重点事業への経営資源の最適配分、海外事業の拡大に加え、収益体質の強化を目指し、一層のコストダウンを推進しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、機能化学品事業が前年同四半期を下回ったものの、医薬事業、セイフティシステムズ事業が前年同四半期を上回ったことにより428億9千3百万円となり、前年同四半期に比べ4億3百万円（0.9%）増加しました。

営業利益は、47億4千4百万円となり、前年同四半期に比べ6億3千8百万円（11.9%）減少しました。

経常利益は、為替差損の増加により45億9千5百万円となり、前年同四半期に比べ17億8百万円（27.1%）減少しました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、31億2千2百万円となり、前年同四半期に比べ13億3千2百万円（29.9%）減少しました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

【機能化学品事業】

売上高は169億7千4百万円となり、前年同四半期に比べ1億6千9百万円（1.0%）減少しました。

機能性材料事業は、スマートフォン向けエポキシ樹脂が好調に推移したものの、半導体市況の減速の影響を受けたことにより、前年同四半期を下回りました。

色素材料事業は、コンシューマー向けインクジェットプリンタ用色素、繊維向け染料が好調に推移したことにより、前年同四半期を上回りました。

触媒事業は、前年同四半期を下回りました。

ポラテクノグループは、X線分析装置用部材が好調に推移したものの、染料系偏光フィルムが低調に推移したことにより、ポラテクノグループ全体では前年同四半期を下回りました。

セグメント利益は12億7千4百万円となり、前年同四半期に比べ7億3千7百万円（36.7%）減少しました。

【医薬事業】

売上高は118億4千8百万円となり、前年同四半期に比べ3億7千3百万円（3.3%）増加しました。

国内向け製剤は、バイオシミラーの「インフリキシマブBS点滴静注用」（抗体薬）が伸長しました。国内向け製剤全体では、ジェネリック医薬品への切り替えが進み、長期収載品は前年同四半期を下回ったものの、「オキサリプラチン点滴静注液」（抗がん薬）、「テモゾロミド錠」（抗がん薬）等のがん関連ジェネリック品が伸長したことにより、前年同四半期を上回りました。

輸出は、エトキシド類（抗がん薬）、高薬理活性原薬が前年同四半期を上回ったものの、ブレオ類（抗がん薬）が前年同四半期を下回ったことにより、輸出全体では前年同四半期を下回りました。

国内向け原薬、受託事業は、前年同四半期を下回りました。

診断薬は、腫瘍マーカー測定試薬が伸長したことにより、前年同四半期を上回りました。

セグメント利益は14億5千7百万円となり、前年同四半期に比べ4億1千6百万円（40.0%）増加しました。

【セイフティシステムズ事業】

売上高は119億4千5百万円となり、前年同四半期に比べ1億8千7百万円(1.6%)増加しました。

国内事業は、エアバッグ用インフレーター、シートベルトプリテンショナー用マイクロガスジェネレータとも堅調に推移したことにより、前年同四半期を上回りました。

海外事業は、自動車安全部品の搭載率が上昇傾向にあるものの、中国市場が低調だったことにより、エアバッグ用インフレーター、シートベルトプリテンショナー用マイクロガスジェネレータ及びスクイブは前年同四半期を下回りました。

セグメント利益は17億7千4百万円となり、前年同四半期に比べ2億4千4百万円(12.1%)減少しました。

【その他】

売上高は21億2千4百万円となり、前年同四半期に比べ1千1百万円(0.5%)増加しました。

アグロ事業は、国内が前年同四半期を下回ったものの、輸出が前年同四半期を上回ったことにより、アグロ事業全体では前年同四半期を上回りました。

不動産事業他は、前年同四半期を下回りました。

セグメント利益は3億2千9百万円となり、前年同四半期に比べ2千3百万円(6.7%)減少しました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

総資産は2,878億4千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ57億2千3百万円減少しました。主な減少は現金及び預金31億2千6百万円、投資有価証券21億2千4百万円、有価証券5億5千6百万円であります。

負債は613億9千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ31億3千3百万円減少しました。主な減少は未払法人税18億1千5百万円、未払金16億6千3百万円、長期借入金10億8千9百万円であり、主な増加は、預り金12億6千2百万円(流動負債その他を含む)であります。

純資産は2,264億5千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ25億8千9百万円減少しました。主な減少は配当金の支払25億9千7百万円、その他有価証券評価差額金14億8千4百万円、為替換算調整勘定14億1千1百万円であり、主な増加は親会社株主に帰属する四半期純利益31億2千2百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の当社グループを取り巻く経営環境は、世界経済は米国や欧州の景気は底堅く推移することが期待されるものの、通商問題の影響や政治情勢を巡る先行き不透明感の高まり等により景気の下振れが懸念されます。中国では各種政策による景気の下支え効果もあり、景気を持ち直しが期待されます。日本経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で各種政策効果もあり、引き続き回復することが期待されるものの、世界経済の下振れの影響に留意する必要があります。

このような状況において、当社グループは事業環境の変化に対応できる強固な財務体質を構築するとともに、グローバルな成長市場で既存ビジネスの拡大と新事業・新製品の展開を加速させ、収益の拡大を図ってまいります。

なお、2020年3月期第2四半期(累計)及び通期の業績予想につきましては、2019年5月10日に公表いたしました予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	42,432	39,306
受取手形及び売掛金	52,917	52,592
電子記録債権	2,000	2,303
有価証券	10,773	10,217
商品及び製品	27,251	27,199
仕掛品	1,719	1,865
原材料及び貯蔵品	20,680	20,694
その他	4,211	4,462
貸倒引当金	△29	△22
流動資産合計	161,958	158,618
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	39,800	39,215
機械装置及び運搬具（純額）	25,194	26,134
その他（純額）	22,252	21,670
有形固定資産合計	87,246	87,019
無形固定資産		
のれん	1,000	906
その他	2,492	2,580
無形固定資産合計	3,493	3,486
投資その他の資産		
投資有価証券	35,426	33,301
退職給付に係る資産	2,448	2,454
その他	3,003	2,981
貸倒引当金	△25	△25
投資その他の資産合計	40,852	38,711
固定資産合計	131,592	129,218
繰延資産	21	11
資産合計	293,571	287,848

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,575	16,734
短期借入金	5,472	5,432
未払金	10,670	9,006
未払法人税等	2,542	727
その他	7,151	7,733
流動負債合計	41,412	39,634
固定負債		
長期借入金	8,778	7,689
退職給付に係る負債	418	442
その他	13,919	13,627
固定負債合計	23,116	21,760
負債合計	64,528	61,394
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,932	14,932
資本剰余金	17,596	17,588
利益剰余金	182,133	177,059
自己株式	△10,490	△4,884
株主資本合計	204,171	204,696
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,374	9,889
為替換算調整勘定	627	△783
退職給付に係る調整累計額	△133	△109
その他の包括利益累計額合計	11,869	8,996
非支配株主持分	13,002	12,760
純資産合計	229,043	226,453
負債純資産合計	293,571	287,848

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	42,490	42,893
売上原価	26,767	28,057
売上総利益	15,722	14,836
販売費及び一般管理費	10,340	10,092
営業利益	5,382	4,744
営業外収益		
受取利息	34	67
受取配当金	350	385
持分法による投資利益	81	143
為替差益	509	—
その他	115	216
営業外収益合計	1,091	812
営業外費用		
支払利息	68	73
為替差損	—	805
その他	101	82
営業外費用合計	169	961
経常利益	6,304	4,595
特別利益		
固定資産売却益	1	0
特別利益合計	1	0
特別損失		
固定資産処分損	89	78
投資有価証券評価損	—	88
特別損失合計	89	166
税金等調整前四半期純利益	6,217	4,428
法人税、住民税及び事業税	1,027	774
法人税等調整額	440	488
法人税等合計	1,468	1,263
四半期純利益	4,748	3,165
非支配株主に帰属する四半期純利益	293	43
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,454	3,122

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純利益	4,748	3,165
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	949	△1,484
為替換算調整勘定	△984	△1,582
退職給付に係る調整額	86	21
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	0
その他の包括利益合計	49	△3,045
四半期包括利益	4,798	120
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,424	249
非支配株主に係る四半期包括利益	374	△129

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年5月10日の取締役会決議に基づき、2019年5月20日付で5,000,000株の自己株式の消却をいたしました。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本剰余金が7百万円、利益剰余金が5,599百万円、自己株式が5,606百万円減少しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	機能化学品 事業	医薬事業	セイフティ システムズ 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	17,144	11,474	11,757	40,376	2,113	42,490	—	42,490
セグメント間の内部売上 高又は振替高	45	0	—	45	28	73	△73	—
計	17,189	11,474	11,757	40,422	2,141	42,564	△73	42,490
セグメント利益	2,011	1,040	2,019	5,072	352	5,424	△42	5,382

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アグロ事業、不動産事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△42百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△111百万円、セグメント間取引消去69百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 2019年3月期第3四半期において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴う遡及適用影響額を、前第1四半期連結累計期間の数値に反映して表示しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

2017年12月26日に行われたレイスペックLtd.との企業結合について、2018年3月期において暫定的な会計処理を行ってりましたが、前連結会計年度に確定しております。これにより「機能化学品事業」セグメントにおけるのれんが減少しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	機能化学品 事業	医薬事業	セイフティ システムズ 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	16,974	11,848	11,945	40,768	2,124	42,893	—	42,893
セグメント間の内部売上 高又は振替高	25	0	—	25	24	50	△50	—
計	17,000	11,848	11,945	40,794	2,149	42,943	△50	42,893
セグメント利益	1,274	1,457	1,774	4,506	329	4,835	△91	4,744

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アグロ事業、不動産事業を含んでお

- ります。
- 2 セグメント利益の調整額△91百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△106百万円、セグメント間取引消去15百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。